

平成26年度 秀峰園事業報告

平成27年5月27日

秀峰園 松藤 義徳

はじめに

去る4月3日、政府は社会福祉法等の一部を改正する法律案を閣議決定し、国会に提出しました。

今の社会福祉法人改革は、官邸の主導で規制緩和により社会福祉分野に営利企業がいつでも参入できるようにする方向性が示されたことを出発点としています。これを受けて厚生労働省における議論が行なわれたが、それは社会福祉法人制度を見直すという結論ありきの検討でした。

さらに、政府と一部マスコミ等によって、社会福祉法人が多大な内部留保をもっているとする誤ったキャンペーンがくり広げられ、国民にも誤解が広がりました。

こうした経過を踏まえれば、国民生活に深くかかわる社会福祉事業の担い手のあり方について十分な議論がなされたとは到底言えません。今必要なのは性急な法改正ではなく、憲法25条を実現するための社会福祉事業の担い手はどうあるべきかについて、正確な実態やデータ等にもとづく国民的議論を行なう事だと思います。

今回の法律案では、社会福祉法人が多大な余裕財産をもっているという誤った宣伝を受け、これを使って地域に貢献することが規定されています。その内容として生活困窮者対策としての無料または低額な福祉サービス等が挙げられていますが、これらは本来、制度で支えるべき課題です。ましてや、こうしたニーズは政府の経済、社会政策の失敗により拡大した格差の産物であり、これへの対応の財源を、多くの社会福祉法人には存在しない余裕財産に肩代わりさせるのは誤りだと思います。

社会福祉法人の内部留保の正確な実態調査は未だなされておらず、そのとらえ方についても議論は尽くされていません。こうした中で、ごく一部の法人の姿をもってすべての社会福祉法人が余裕財産をため込んでいるとする宣伝は事実をねじ曲げるものであります。大多数の社会福祉法人は人件費を抑制する等の自己努力により、不十分な報酬から事業の継続に必要な資金を積み立てています。今必要なのはこうした資金を地域貢献に使うようせまることなく、福祉人材の賃金を全産業の平均並に引き上げられるよう報酬を抜本的に増額する等運営の困難さを解消し、人材の確保や支援の質の向上等を後押しすることだと思います。

○職員配置

平成27年3月31日現在

管理者 1 サービス管理責任者 1 目標工賃達成指導員 1 生活支援員 4
職業指導員 3(3) 調理員 2 (2) 嘱託医 1 (1)

※ ()内の数は非正規職員

○開所日数・利用者数・出勤率

	開所日数	利用者数	実利用者数	延利用日数	出 勤 率	出勤率(20名)
4 月	23 日	29 人	29 人	529 日	79.3 %	115.0 %
5 月	22 日	28 人	28 人	524 日	85.1 %	119.1 %
6 月	23 日	28 人	28 人	542 日	84.2 %	117.8 %
7 月	23 日	28 人	28 人	552 日	85.7 %	120.0 %
8 月	22 日	28 人	28 人	485 日	78.7 %	110.2 %
9 月	23 日	28 人	28 人	528 日	82.0 %	114.8 %
10 月	25 日	29 人	29 人	590 日	81.4 %	118.0 %
11 月	21 日	29 人	29 人	461 日	75.7 %	109.8 %
12 月	22 日	28 人	28 人	508 日	82.5 %	115.5 %
1 月	22 日	28 人	28 人	510 日	82.8 %	115.9 %
2 月	21 日	28 人	28 人	483 日	82.1 %	115.0 %
3 月	22 日	28 人	28 人	505 日	82.0 %	114.8 %
合 計	269 日	339 人		6,217 日	81.8 %	115.6 %

○平均年齢・平均通所年数 (男 17名 ; 女 11名)

平均年齢 55.0 歳 (男 54.5 歳 ; 女 55.6 歳)

平均通所年数 12.2 年 (男 10.6 年 ; 女 14.6 年)

○作業支援

縫製班

下請け作業

26年度も、アンネル・太陽セランドの下請け作業を主軸に展開しました。消費税による駆け込み需要の反動を受け、従来の受注品は減っていく傾向にありましたが、今ま

で行った事のない新しい製品を取り込むよう営業努力をし、取り込む事に成功し、問題なく作業を進める事が出来ました。

利用者が取り組める作業や必要な作業は残しつつ、利益を考え、受注会社とより一層良好な関係を築き、先行して受注対応出来たように思います。

自主製品

きょうされんふきんについて、直線縫いが曲がらないよう治具を作り、不良品の枚数は少なくなったが、売り上げは伸び悩んでいます。不良品をオリジナルふきんとして、売り上げを伸ばすよう努めています。

小物製品について、商品の改良は、担当利用者中心の対応で、前年度並みの生産は実現出来たと思います。

中でも、新規でオリジナルクッションと枕を商品化する事が出来、売り上げを伸ばす事が出来ました。

軽作業班

リサイクル作業

9月から松原団地で回収出来るようになり、週1回まとまった量を回収出来るようになりました。2月から業者と電線の被膜取りの契約が出来、雨の日や体調不良、リサイクル作業が難しい利用者にも沢山の電線被膜取り作業が出来、作業量、売り上げも今後は安定する状態となりました。

役務

既存の顧客に加え、依頼先での宣伝効果もあり、新規の受注を増やす事が出来ました。これまで以上に安全性を重視し、顧客の要望に沿った作業をやれた事で、売り上げ増となりました。

販売

催事販売は地元開催や採算の取れる見込みのあるものに限定して行ったため、出店回数は少なくなったが、効率の良い販売の参加が出来ました。

施設販売は前年度同様に行うことが出来ました。販売先からの紹介により新規開拓もあったが、販売件数を整理するなど行い、前年度並みの販売件数です。

道の駅などの委託販売は引き続きポンせんべい・さしみこんにやくを収めているが、せんべいの売り上げが下がってきています。

加工について

ポンせんべい、こんにやく等の従来商品は、販売や納品の時期に合わせて、質・量ともに安定した生産が出来ました。課題であったラベルの切り方や貼り方も道具の活用により、良品を保てるようになりました。

せんべいなどの新商品の開発や仕入れ商品の入れ替えが出来ず、売り上げを伸ばす事が出来ませんでした。

○作業班人数及び工賃支払状況

平成25年度		年間支払総額	月額平均工賃（１人）		夏期手当(1人)	冬期手当(1人)
縫製班	10 名	2,493,609 円	20,780 円	19,108 円	10,000 円	25,000 円
軽作業班	19 名	4,156,078 円	18,228 円			
合 計		6,649,687 円				

平成26年度		年間支払総額	月額平均工賃（１人）		夏期手当(1人)	冬期手当(1人)
縫製班	9 名	2,698,609 円	24,987 円	19,449 円	10,000 円	15,000 円
軽作業班	19 名	3,836,224 円	16,826 円			
合 計		6,534,833 円				

※ 工賃の最高額（縫製班：56,395 円，軽作業班：44,800 円）

【平成26年度下半期 秀峰園 月次資金収支一覧表】

福祉事業活動の部

《 収 入 》

下半期	上半期計	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
自立支援費等	29,177,440	5,667,960	5,502,280	4,849,480	5,159,710	4,624,880	4,850,670	59,832,420
雑収入	788,850	72,650	108,080	72,200	66,350	72,570	108,200	1,288,900
合 計	29,966,290	5,740,610	5,610,360	4,921,680	5,226,060	4,697,450	4,958,870	61,121,320

《 支 出 》

人件費	15,402,444	2,230,068	2,024,129	5,043,485	2,197,615	2,538,528	2,803,986	32,240,255
事業費	5,040,090	678,571	563,979	896,383	730,267	879,282	1,022,286	9,810,858
事務費	1,693,492	177,248	257,712	98,262	547,153	394,276	356,884	3,525,027
その他	1,467,271	95,795	73,260	73,346	74,472	95,130	5,271,994	7,151,268
合 計	23,603,297	3,181,682	2,919,080	6,111,476	3,549,507	3,907,216	9,455,150	52,727,408

収 支	6,362,993	2,558,928	2,691,280	-1,189,796	1,676,553	790,234	-4,496,280	8,393,912
-----	-----------	-----------	-----------	------------	-----------	---------	------------	-----------

作業活動の部

作業活動による収支

下半期	上半期計	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
作業活動収入計	5,358,586	803,589	958,623	1,290,246	449,323	800,845	780,240	10,441,452
作業活動支出計	5,285,886	804,878	738,614	1,403,476	643,918	793,261	963,053	10,633,086
作業活動収支差額	72,700	-1,289	220,009	-113,230	-194,595	7,584	-182,813	-191,634

作業班別工賃支払状況

下半期	上半期計	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
縫製班(9名)	1,325,014	248,373	207,725	297,451	180,551	202,511	202,485	2,664,110
軽作業班(19名)	1,958,705	297,532	255,135	502,615	265,915	272,081	290,924	3,842,907
工賃総額	3,283,719	545,905	462,860	800,066	446,466	474,592	493,409	6,507,017
縫製班(平均)	24,537	27,597	23,081	33,050	20,061	22,501	22,498	
軽作業班(平均)	18,136	16,530	14,174	27,923	14,773	15,116	16,162	

○利用者支援

障害とともに、加齢からくる衰えも顕著に見え始め、病院の送迎やヘルパー、訪問看護等の送迎、家庭の事情の為の送迎を可能な限り受け入れ、施設利用が続けられるように、また、独り身や車を運転出来ない方もたくさんいる為、秀峰園に通園する事で、病院等通院や付き添いが出来る体制作りをしました。

長期欠勤や入院した利用者には、定期的に訪問やお見舞いをし、声掛けや必要備品を揃えたり、入院手続き等支援しました。聾啞者の自宅にパトライトを取り付けたり、運動能力向上の為、訪問看護が入るよう手続きも行いました。

○生活支援

健康管理

毎年行っている田川診療所による健康相談を利用者に実施し、注意や改善すべき点を本人と職員に指導いただきました。その際、聾啞者に対しては、職員が通訳をしたり、意味を上手く理解されない方には、理解出来るよう分かりやすく伝えました。また、田川診療所と医療情報財団による年2回の健康診断で再検査の診断が出た利用者については、病院に行くよう助言を行いました。

体調を崩す事から始まっていく精神的、障害の影響で、長期欠勤や入院となる利用者が

数名いるので、健康相談や健康診断を上手く活用し、体調や精神が安定するよう努めたいと思います。

防災管理

火災だけではなく、地震等の天災も考え、年2回の避難訓練（避難誘導・消火・通報）を実際の火災を想定したものとし、利用者には、当日避難訓練がある事は伝えず、本当の意味での避難訓練を行っています。特に聾啞者が5人いるので、サイレンが聞こえない方の対応やパトライトがきちんと点灯するか、避難経路、誘導、避難場所の確認、水消火器での消火練習をし、年に1度消防署の職員からの指導を受けるようにしています。

○職員研修

利用者に対する支援や食品を扱う上で当然の知識やマナー、技能を習得する事と職務上必要な能力や専門性が身に付くよう、また、施設だけの世界だけではなく、多事業の考えや情報を得る事により、人間の幅を広げ、一層のサービス向上や教育、自己啓発にも繋げていく事を目的に、様々な研修等に参加しました。

4/21	安永健太死亡事件裁判（福岡）
5/15、16	防火管理者講習（飯塚）
7/1	社会福祉会計簿記「入門講座」（博多）
8/2	全国保育団体合同研究集会（福岡）
8/4	安全運転管理者講習（田川）
9/4	65歳問題を考えるつどい（田川）
9/11	障害者虐待防止と支援者に求められる姿勢（直方）
9/22	安永健太死亡事件裁判（福岡）
9/25	労務セミナー（福岡）
10/7、8	リスクマネジメント研修（春日）
10/8	食品表示法説明会（飯塚）
10/11、12	サービス管理責任者セミナー（桂川）
11/3	福岡県人権問題研究集会（粕屋）
11/17	小林訴訟裁判（福岡）
11/14、15	きょうされん事務研修（大阪）
12/5	リスクマネジメント研修（春日）
12/13	障害者週間を考えるつどい（田川）
12/15	安永健太死亡事件裁判（福岡）

12/17	高次脳機能障害研修（春日）
1/24	高い工賃を保障するために <u>※レポーターで</u> （博多）
2/9	小林訴訟裁判（福岡）
2/10	処遇記録研修（春日）
2/28、3/1	きょうされん九州ブロック大会（北九州）
3/23	平成27年度障害福祉サービス改定等説明会（吉塚）

○行事活動

個別支援計画書や日中活動の中で、やりたい事や行きたい所を職員で吸い上げ、土曜日の活動や友の会の行事で取り組んできました。

秀峰園の行事として、野球観戦や風船バレーボール大会の参加や練習。街頭署名活動や買い物、DVD鑑賞。そうめん流し、初参り、新年会や1泊で忘年会も行いました。

毎年恒例の川崎福祉祭り、今後は毎年行う「秀峰園まつり」も行いました。

友の会主催として、花見、日帰り旅行、みかん狩りも行いました。

利用者のニーズをしっかりと取り入れながら、職員会議等で十分に協議しながら、必要に応じ、社協よりバスを借用し、利用者が安全に楽しめるものを提供できたと思います。

○まとめ

私たち秀峰園の職員は、利用者に対して、「ありがとう」の感謝を持って支援していく事を根本としてきました。

その中で、「就労支援B型事業所」という施設の性質を強く受け止め、利用者に作業が常に提供出来る環境を作りながら、工賃（給料）を少しでもたくさんお渡し出来る事を基本としながらも、身体的・精神的・知的に障害がある利用者を色んな側面で支援していきました。また、社会資源の活用等手続きを仲介支援して、スムーズに利用できるように支援もしました。

手話の会等、独学で学習を続け、手話も上達し、聾啞者も安心して、相談や日常会話、作業中の質問、報告もしっかりと伝わっています。利用者に対する声掛けや会話についても、失礼のないよう気を付けて話しています。

今後は、秀峰園が利用者の人生の中で生きがいや必要な場所となるよう、職員も日々精進し、学習しながら、利用者とともに成長していきたいと思います。

平成26年度 秀峰園決算報告

≪ 就労支援事業活動 ≫ （利用者の作業に関する事業）

【収入】

①【自主製品売上】は昨年度と比べ約▲100万円の主な原因として、主に「ポンせんべい」売上が伸び悩んでいる。又、全体的にも売上が下がっている。打開策としてポンせんべいの味付、及び、種類を開発する。実際、バレンタインデー商戦にチョコレートを含んだポンせんべいは好評だった。②【委託販売売上】は約▲13万円（仕入商品を精査し減少させた）③【下請け工賃収入】は約▲9万円（実習先のフォーカートを就労の場へ移行した為、本来ならば約50万円の減収だが、草刈等の役務により▲9万円まで努力した）④【リサイクル作業収入】は約12万円増（回収品は種類別に換金先を変更した）⑤【その他の就労支援事業収入】は約▲30万円（模擬店出店を精査し、振替休日で日中活動の影響を最小限にする為）。

以上により全体で差引合計▲1,414,019円の減収。

新商品の開発、並びに、販路開拓を行い、平成27年度も工賃水準を下げる事無く、工賃向上に努めたい。

【支出】

収入に比例し材料費も減少し、昨年度と比較すると約▲69万円抑えられたが、消費税の8%が大きく響いた為、就労支援事業活動増減差額は▲300,312円と成った。しかしながら、縫製班は下請け企業へ積極的に営業をかけ、軽作業班は6%の時給アップが行えた。尚、全体的に利用者工賃が減少しているのは、③でも述べた通り、実習先の工賃を【下請け工賃収入】に計上していたものを、就労の場と利用者が直接契約と成った為であり、社会福祉会計上、利用者工賃は減少しているが、総合的には工賃向上が行えた。

≪ 福祉事業活動 ≫ （施設運営）

【収入】

⑥自立支援給付費収入

目標工賃達成加算Ⅰの取得と利用者の安定した出勤により2,078,890円の増収。

【支出】

⑦人件費

定期昇給を行ったが、職員の平均年齢が下がっている事と主任不在の為、前年比▲706,439円。減少。

⑧事業費

物価の上昇、消費税率の改定が【給食費】、【車両費】等の科目へ顕著に反映され事業費は前年比５６１，８５７円の増。

⑨事務費

ホームページの作成も終わり、⑩【広報費】は大幅に削減され、全体で▲４１２，７６５円の減少。

＜ その他 ＞

⑪【固定資産取得支出】プレハブ作業室ブラインド設置１０８，７００円、故障により加工作業室エアコン取替え２５６，９１６円（⑫エアコン処分料３５，０００円）、自立支援費請求用パソコン購入１６１，４６０円、工業用ミシン（中古）購入１８３，６００円。合計７１０，６７６円。

⑬今年度も施設整備等積立金を５００万円行った。

⑭法人本部へ５０万円を繰り入れ。

以上、平成２６年度の繰越金は８，２０２，２７８円で前年度までの繰越金に加える
と３７，５９８，３３５円となり、これを平成２７年度に繰り越す。（当期末支払資金
残高）

平成２６年度 収支

収 入		支 出	
就労支援事業	１０，４４１，４５２	人件費	３２，２４０，２５５
障害福祉サービス等事業	６０，２８２，４２０	事業費	９，８１０，８５８
受取利息配当金	１０，６２０	事務費	３，５２５，０２７
利用者等外給食費	７７８，５００	就労支援事業	１０，６３３，０８６
雑収入	４９，７８０	その他	９０５，５９２
		施設整備積立金	５，０００，０００
		拠点区分繰入金	５００，０００
		器具、備品取得	７１０，６７６
		固定資産除去・廃棄	３５，０００
合 計	７１，５６２，７７２	合 計	６３，３６０，４９４

収入 ７１，５６２，７７２ － 支出 ６３，３６０，４９４ ＝ ８，２０２，２７８

平成２６年度繰越金 ８，２０２，２７８円